

平成29年度「京都市生涯学習市民フォーラム」シンポジウム  
**「ほんまもん」に出会うまち 京都**  
 ～文化に彩られた珠玉の博物館～



こんにちは。  
 生涯学習マスコットのマナビです。  
 フンファン飛び回って、  
 皆さんの学びを応援しています！  
 京都市生涯学習市民フォーラムの  
 シンポジウムの様子を  
 「レポートします」



平成29年11月6日、約240の生涯学習関係団体のネットワーク「京都市生涯学習市民フォーラム」の総会が、同志社大学寒梅館で開催されました。

総会に続くシンポジウムでは、松本会長と門川市長が、ゲストに細見良行さんと高田紫帆さんを迎え、2019年に日本で初開催の「国際博物館会議（ICOM）京都大会」を控え、市民の貴重な学びの場である博物館の魅力について、語り合いました。

- ◆ 平成29年11月6日（月）午後3時～4時30分 同志社大学 寒梅館 ハーディーホール
- ◆ パネリスト 松本 紘 氏 京都市生涯学習市民フォーラム会長 ※コーディネーター  
 細見 良行 氏 細見美術館館長、京都市内博物館施設連絡協議会幹事長  
 高田 紫帆 氏 2017ミス日本グランプリ、京都観光おもてなし大使  
 門川 大作 京都市長

◆ **はじめに**

（松本会長）

本日は市長とともに、素晴らしいお二方をゲストにお迎えしました。簡単に自己紹介をしていききたいと思います。

私は現在、埼玉県和光市に本拠がある理化学研究所（理研）に勤めています。理研と言いますと、皆さん例の事件を思い出さと思いますが、大変有名になりました。「有名」は英語で2通りの言い方があります。肯定的なニュアンスを持つ「フェイマス（Famous）」と否定的なニュアンスを持つ「ノートルリアス（Notorious）」。理研が有名になったのは後者であったという気がしています。

実は、理研は関東では割と知られた研究所です。関西では、名称は知られていてもその中身までは知られていないと思います。かく言う私も、行ってみるまでどんな研究所なのかほとんど知りませんでした。実際に行ってみると結構面白い研究所です。

京都との関わりということでは、京都大学で50年以上お世話になり、京大総長であった折は、門川市長には随分とご支援をいただきました。今思い返しても、京大が京都にあって本当に良かったとつくづく感じます。京大は日本で2番目の国立（帝国）大学として設立されましたが、当初、2番目の

**京都市生涯学習市民フォーラム**

京都市と生涯学習に関わる諸団体の連携・協力関係のもと、市民の持つ活力と英知を結集し、まち全体を学びの場とする、生涯学習のまちづくりを推進するための約240団体からなるネットワーク組織。1994年1月20日設立（平安建都1200年を記念して設立）。

まつもと ひろし  
 松本 紘 氏 プロフィール



前京都大学総長。専門は宇宙科学・宇宙電波工学。「生存圏研究所」「iPS細胞研究所」の開設やグローバルリーダーを育成する大学院「思修館」を創設。2015年から我が国唯一の自然科学の総合研究所である「理化学研究所」の理事長として、世界のRIKENを牽引。2017年1月には、京都市生涯学習振興財団理事長に就任。

国立大学は大阪に設立される予定だったんですね。しかし、当時の府議会が誘致されたことで今の京都大学があります。文化の一部に学術も含まれていると思います。そうした意味で本日の一員に参加させていただいていることをありがたく思っています。

#### （細見さん）

こうして壇上に座らせていただきますと、すごいところに引っ張り出されたという気がします。京大の前総長と阪大生に挟まれていますし。唯一ありがたいことに、私は同志社大学の出身です。会場がホームグラウンドですので、少しはリラックスしてやらせていただけます。

岡崎で美術館を開館させていただいて、早いもので来年20年になります。京都の地で色々なことをさせていただいてきましたが、いよいよ2019年に京都で開催される「国際博物館会議（ICOM）京都大会」のお世話役も仰せつかっていますので、こうして本日はお呼びいただいた次第です。どうぞよろしくお願いいたします。

#### （高田さん）

普段は学生として、大阪大学の文学部でドイツ文学を学んでいますので、ミス日本としての活動と学業の両立に励んでいるところです。

大学に入学してから外国への憧れを持つようになり、外国に行ってみたいと思うようになったのですが、外国に行って外国語で話してみたいと思っても、話す中身である日本のことを私は何も知らないなと思い、日本について学びたいと思ったことがミス日本コンテストに出場するきっかけでした。

ミス日本コンテストでは、ファイナリストに残ると、4箇月間の勉強会に参加することになるのですが、そこでは、日本の政治・外交・伝統芸能や実際に美術館に行くなどの30以上の講座を学べるのです。これが私にとってとても魅力的でした。一大決心をして応募し、ラッキーなことに今日はここにミス日本グランプリとして参加させていただいている次第です。

#### （松本会長）

会場の皆さんに市長の自己紹介は不要だと思いますので、市長は本日のゲストお二人について何かコメントを。

#### （門川市長）

まずは松本会長について。先ほどちょっとお話に出ましたが、理化学研究所の信用が地に落ちた。政府は「これは何とかしなければならない、東京の人ではダメだ。京都の人だ。」と考え、京都大学元総長の松本先生を理研のトップに起用して、組織を建て直し、信用回復をしようとした。これは凄いことですね。松本先生が今、素晴らしいご活躍されていることを嬉しく思っています。全国的な問題が何か起きた時、それを立て直す必要に迫られると、京大の方が起用される。こうしたことが色んな分野でよくあります。京都が「ほんまもん」のまちならでのことですね。

#### 国立研究開発法人理化学研究所

物理学、化学、工学、生物学、医科学など基礎研究から応用研究まで行う、国内唯一の自然科学系総合研究所。1917年に財団法人として創設され、2017年3月に創立百周年を迎えた。ノーベル物理学賞を受賞した朝永振一郎、湯川秀樹など、日本の科学技術の発展に貢献する優れた人材と研究成果を生み出している。国際的にも高い知名度と研究業績により、“RIKEN”の名称で知られる。



#### ほそみ よしゆき 細見 良行 氏 プロフィール



祖父から三代にわたり蒐集した古美術品のコレクションを基に細見美術館を開館し、館長に就任。京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）幹事長として市内博物館施設の振興に尽力。2017年1月には、国際博物館会議（ICOM）京都大会2019に向けた開催地の実行委員会となる京都推進委員会の副委員長に就任。

#### 細見美術館

公益財団法人細見美術財団が運営する美術館。実業家・日本美術コレクター、細見古香庵（1901～79）に始まる細見家三代の蒐集品を基礎として1998年に開館。2018年に20周年を迎えた。コレクションは、神道・仏教美術から茶の湯の美術、琳派・伊藤若冲といった江戸絵画など、日本美術のほとんどすべての分野・時代を網羅。館内には茶室・ショップ・カフェも併設。建物は、京町家のイメージをとり入れた現代建築で第40回「建築業協会賞」受賞。



細見さんには、京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）の一番の中核である幹事長として、208の加盟館をまとめていただいております。同時に「ICOM」の誘致にも大きな役割を果たしていただきました。

そして高田さん。ご本人からは言いにくいと思いますが、このミス日本グランプリは、古くは山本富士子さんが、あるいは藤原紀香さんが輝いたグランプリです。また20年ぶりとなる、ミス着物とのダブル受賞も果たされました。もう少し紹介させていただくと、紫明小学校で大文字駅伝を、加茂川中学校・西京高校で陸上を頑張り、クラブ活動と勉強を両立させ現役で大阪大学に入学されました。私は教育委員会で務めていた頃、現場の先生方と共に市立高校改革に取り組みました。僭越ではありますが、高田さんはその改革が正しかったと証明してくれた方、新しい時代のリーダーであると思います。また、お父様も教育委員会で勤務され、現在は、市立中学校の教頭先生としてご尽力いただいております。

### （松本会長）

市長はもちろん京都市民の代表ですが、今日の座談会では、高田さんとは好対照に男性でまたシニアの代表と言えます。細見さんはまだまだ働き盛りで、京都を代表する美術館の館長であります。このような4人で本日はお話を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いします。



## ◆ 日本を代表する文化ゾーン・京都

### （松本会長）

細見さんは、20年間にわたって美術館を運営してこられ、現場で本物に触れてこられたと思います。その観点から少しお話をいただけますか。

### （細見さん）

私は現在、京都で美術館を運営しておりますが、それ以前の30～50歳手前までは東京にいました。東京にいた時に、美術館を作ろうと思い立ち、日本各地を見て回ったのですが、京都、特に岡崎地区を見たときは本当に驚きました。お気づきでない方も多いと思いますが、京都の岡崎地区と東京の上野公園地区が日本の2大文化ゾーンなんですね。岡崎と東京の上野には博物館・美術館があって、動物園やコンサートホール、野球場なんかも集中しています。上野に限っては東京芸大もあります。そして、京都に惚れ込んで、この地に美術館を開設することを決めました。

門川市長が長らくご尽力され、文化庁の京都移転が決まりましたが、私は大賛成です。東京はコンクリートジャングルで、文化庁職員といえども文化に接する機会になかなか恵まれません。京都はコンパクトな街中に、神社仏閣や美術館などが多く、文化に触れる機会がたくさんあります。文化庁が京都に来ることになって本当によかったと思っています。

たかだ しほ  
高田 紫帆 氏 プロフィール



京都市生まれ、京都市立西京高校卒、大阪大学在学、京都観光おもてなし大使。「第49回ミス日本コンテスト 2017」で、2156人のエントリーの中からグランプリに選ばれる。20年ぶりとなるミス着物とのダブル受賞。小学生のころから陸上に打ち込み、加茂川中時代に1500m競技でジュニアオリンピックに出場。

### ミス日本コンテスト

日本を代表する美しい女性に荣誉と実益が与えられる日本最高峰の美のコンテスト。審査では、容姿だけでなく、心の持ちようや社交性など幅広い人間性が問われる。グランプリは、その年を代表する、若く美しい可能性溢れる女性に贈られる最高の賞。1年に1人だけ選出される。ミス着物は、和装が美しい日本女性に送られる賞。第二次世界大戦敗戦後の日本に対するアメリカの救援活動「ラウ物資」への感謝と日米の友好親善を行う女性親善大使の選出を目的に1950年に創設。



### 京都・岡崎地区



- ・京都市勤業館（みやこめっせ）
  - ・京都伝統産業ふれあい館
  - ・ロームシアター京都（京都公会館）
  - ・京都市美術館
  - ・京都市動物園
  - ・平安神宮
  - ・野球場
  - ・国立近代美術館
  - ・細見美術館
  - ・野村美術館
  - ・藤井育成会有隣館
  - ・無鄰菴
  - ・琵琶湖疏水記念館
- など

(松本会長)

私は彫刻が好きなのですが、先日、上野で開催されていた運慶展に行ってきました。細見さんがおっしゃるとおり、上野には芸大や博物館、動物園などがあり、文化ゾーンだなと感じました。一方で京都は、お話に出た岡崎地区もそうですが、市内のいたるところで文化・芸術の「香り」を感じることができますね。京都育ちの高田さんは、陸上のほかに文化に触れる機会についてはいかがですか？

(高田さん)

京都にはいたるところに世界遺産がありますね。子どもの頃は、歴史などの学問的な場所と意識して訪れていた訳ではありませんでしたが、リフレッシュにとっても効果的な場所でしたので、トレーニングの休憩場所として金閣寺や上賀茂神社などをコースの中に組み込んでいました。

でも、歴史など学び、改めて訪れてみるとやはり見方が変わりますね。観光大使という立場になってからは、なかなか難しいことだと思いますが、世界遺産など京都の文化をきちんと守っていきたいと思うようになりました。

(松本会長)

高田さんはミス着物に選ばれましたが、小さいころから着物には着慣れていたのですか？

(高田さん)

実は、着物を着たことのあるのは七五三と成人式の2回だけなんです。

(門川市長)

素晴らしい装いですね。ぜひ普段から着物を着て大阪大学に通っていただきたいなと思います。

(松本会長)

背中に京都代表と刺繍しといてね。

◆ ICOMが京都にやってくる！

(松本会長)

先ほどから「ICOM」という言葉がよくあがっています。「ICOM」とは“International Council of Museums”の略で、博物館の国際団体で、パリに本部があります。先ほど控室で話題になり、これは「アイコム」と読むのではないですか、とお伺いしたところ、細見さんから、ヨーロッパ流では「イコム」で、アメリカ流では「アイコム」と読むとご教示いただきました。京都市の担当者の方が、来年は「アイコム」に統一しますと言われたのですが、それに対して細見さんが「トランプ氏にやられたのですか!？」とおっしゃっておられましたね。

細見さん、ICOMについてもう少し詳しく説明をお願いします。

東京・上野地区



都立上野恩賜公園案内図  
Tokyo Metropolitan Ueno park guide map

- 恩賜上野動物園
- 藝大美術館
- 旧東京音楽学校演奏堂
- 東京芸術大学
- 東京都美術館
- 東京国立博物館
- 国立科学博物館
- 国立西洋美術館
- 野球場
- 東京文化会館
- 上野の森美術館
- 下町風俗資料館
- 上野東離宮

など



国際博物館会議 (ICOM)

1946年に創設された国際的な非政府機関で、約140の国と地域から、加盟館約2万施設、約3万5千人の博物館の専門家が参加している。国別に組織された約120の国内委員会と専門分野に即して組織された30の国際委員会があり、文化財の不法輸出入の防止に関する取組、リスク・マネージメントに関する取組、文化と知識の普及促進に関する取組、有形・無形遺産の保護に関する取組等、博物館に関わる情報交換や知識の共有が図られている。3年に一度、全ての委員会が一堂に会する世界大会が開催されており、2019年は京都市で開催される(2013年・リオデジャネイロ、2016年・ミラノ)。



### （細見さん）

ICOMは約70年の歴史があり、世界約140箇国・約3万5千人の会員がいる、博物館・美術館の国際的な団体です。3年に1度総会が開かれており、去年はミラノで開催されました。門川市長から「ICOMを京都に誘致したい」と言われた時は、まさか京都で開催できるなんて思っていませんでした。私も誘致活動のシンポジウムでパネリストを務めるなど携わっていたのですが、「取れてしまった！」というのが実感です。

ICOMは世界的には有名な組織ですが、日本国内ではあまり知られていませんでした。京都での開催が決まり、少しずつ認知度は高まっていますが、まだまだ知られていないのが現状です。

京都開催が決定しましたので、昨年開催されたミラノ大会の視察へ行きました。ICOM大会の影響もあったのかもしれませんが、ミラノでは定期的に博物館・美術館の夜間開館がされていて、夕食後の午後10時頃でも主要な美術館を巡ったり、ディスカッションもできました。ミラノ国際会議場で行われた3,000人規模の開会式や部門別の会議にも参加してまいりました。特に印象に残っているのは、最終日のクロージング・パーティーでスクリーンに次回開催地が“京都”と表示された時に、約1,000人ももの参加者からスタンディングオベーションをしていただいたことです。その時に、京都の持つパワーを実感しましたね。その熱気に大変驚きましたし、こんなにも熱烈に、京都での開催を歓迎されるとは思っていなかったので、2年後に備えて気の引き締まる思いをしました。現在は門川市長含め、京都が一丸となって準備を進めているところです。

### （松本会長）

門川市長は、ICOMだけでなく様々な国際会議の積極的な誘致にご尽力いただいておりますが、私も京都国際会館での2,000人規模の国際会議の開催に携わったことがあります。その誘致活動を行った際には、京都の「ブランド力」というものを使わせていただきました。国際会議は開催が決まってからが大変ですから、幹事役をお務めの細見さんもお苦労が多いかと存じますが、世界の方が更に京都の良さを感じていただけるような機会に、ぜひしていただければと思います。

京都国際会館も実は十分な広さではなくて、このたび少し広げていただくのですが、こうした点について、門川市長からお話をお願いします。

### （門川市長）

京都の国際会議開催都市としての都市格は向上しています。しかし、世界で一番国際会議の開催数が多い都市はシンガポールで、12,000人を収容可能なホールがあります。また、香港や上海など世界中に5,000人程度収容可能なホールがいくつも作られています。一方、京都国際会館が収容可能な人数は1,840人なんです。せっかく誘致できそうな国際会議がキャパシティの問題で取れないということがあります。京都国際会館は日本で

### ICOM 京都大会 2019

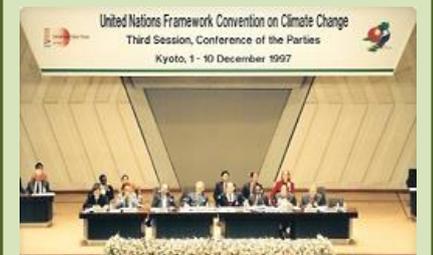
2013年にICOM大会招致検討委員会が「世界博物館大会（ICOM）2019」の日本誘致を具申。2014年に、ICOM日本委員会において国内開催候補地を京都市に決定し、正式立候補。2015年6月にパリで開催されたICOM諮問委員会にて京都市開催PRの最終プレゼンテーションを実施し、投票の結果、京都72票、シンシナティ26票、棄権2票という大差で京都市開催が決定した。

ICOM京都大会2019は初の日本開催であり、9月1日から7日までの7日間の日程で、約115箇国から約3,500人の博物館関係者が国立京都国際会館を中心とする会場に集う。



### 京都における国際会議

- ・開催件数  
2015年：218件  
→ 2016年：269件（+23.4%）
- ・参加者数  
2015年：153,495人  
→ 2016年：199,178人（+29.8%）
- ・国際統計でのランキング  
国内：①東京21位、②京都44位  
（ICCA（国際会議協会）2016年）



世界平和や人類の未来に貢献する国際会議の舞台となることは、ブランドイメージの向上による都市格の向上につながる。多数の参加者の滞在に伴う消費、雇用の創出等、直接的な経済効果が高いだけではなく、市民の国際理解の促進、最先端の「知」に接することによる新たな知恵、ビジネスの創出等、様々な波及効果が期待できる。

唯一の国立の国際会議場です。現在5,000人収容可能なホールを目指して、増改築を国に依頼しています。まずは来年2,500人収容可能なホールが完成します。引続き頑張っていきたいと思っています。

京都議定書が誕生してから今年で20周年です。京都議定書に象徴されるように、京都で会議をやれば成功します。京都で開催すれば、他で開催するよりも2倍の人が来ます。昔は、京都で会議をすると奥さんが来られるので、奥さんのためのプログラムを組まなければなりませんでしたが、この頃は違ってきましてね、旦那さんが一緒に来られます。旦那さんのプログラムを考えなければならなくなってきました。世界は変わっていきますね。そんなことも含めて、市民ぐるみで「ほんまもん」の京都を感じていただき、国際会議で京都が世界にますます貢献していけるようにしたいと思っています。

### （松本会長）

ありがとうございます。昔はよく「レディズプログラム」というものを考えましたが、最近は「スパウズ（spouse＝同伴者・配偶者）プログラム」というものも盛り込まれ、色々工夫がなされているようですね。ICOM大会期間中、博物館や美術館は午後10時頃まで開館をするのでしょうか？

### （細見さん）

実はICOMのプレイベントを始めています。来年の2月から、事前に練習しておこうということで、博物館や美術館の夜間開館も行う予定です。細見美術館でも、3月9日に午後6時以降も開館する予定です。

門川市長にも「夜の岡崎エリアに人を呼ぼう」ということにご賛同いただいている、ここ5年ほど一緒に頑張っています。うちの美術館にあるカフェは、なかなかお客さんに来てもらえないのですけれども、毎日午後10時まで頑張って営業しています。ロームシアターが出来てレストランも営業されていますし、皆さんぜひ夜の岡崎に遊びに来ていただければと思います。

### （門川市長）

ICOMの誘致に成功して細見さん達と相談しました。ICOM京都大会を機に、京都市民の方々にもっともっと博物館・美術館に親しんでいただき「生涯学習」の機会となるようにしよう。同時に博物館・美術館もますます生き生きとする機会にしよう。これがICOM誘致の大きな狙いなんです。

ICOM京都大会では、世界中から博物館・美術館のリーダーの方々がたくさん京都に来られます。博物館そのものだけでなく、京都市民の暮らしの中にどのように博物館が、文化的な生活が根付いているのかということも、京都の魅力でありますので、ぜひ見ていただきたい部分です。

東京オリンピック・パラリンピックは8月に開催予定です。日本の8月は亜熱帯のようになりますので、観光客に対するおもてなしも昼間だけでなく、夜間もしていきたいと思っています。岡崎エリアでは、細見美術館さんなどにもご協力いただき、京都市美術館でも夜間開館をやっているんですけど、

### 国立京都国際会館

戦後の復興から国際社会への復帰を目指す日本では1957年頃から国際会議場を建設する構想がスタート。地元の熱意と日本の誇る歴史と文化、豊かな自然を有する点を踏まえて、建設地として京都が選定され、1967年に日本初の国立の国際会議場として左京区宝ヶ池に京都国際会館が開館。以来、日本における国際会議の歴史を築いてきた。2016年に開館50周年を迎えたが、海外における施設の大規模化を踏まえ、国際競争力の強化を図るため2018年の竣工を目指し、2,500人規模の多目的ホールの工事が実施されている。



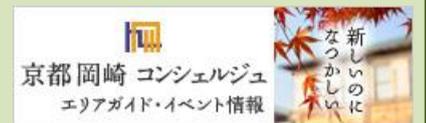
### ICOM 京都大会プレイベント

ICOM 京都大会を記念し、京都のまち全体で大会をPRし、気運を盛り上げる取組。美術館の夜間開館のほか、博物館を会場とするコンサート、博物館の魅力を語り合うシンポジウム、文化施設を歩いて巡るガイドツアーなど、ICOM 京都大会を機に、多くの市民が博物館に親しんでもらう企画も多数実施される。



### 岡崎地域の活性化

明治維新後、東京遷都により衰退していった京都を活性化するために、琵琶湖疏水の建設、内国勲業博覧会の開催などの近代化策が行われ、岡崎地域では平安神宮の創建や時代を先導する多くの文化・交流施設が整備された。京都市では、2011年に「岡崎地域活性化ビジョン」を策定し、官民連携による岡崎地域の更なる魅力向上を図っている。



なかなかお客さんに来ていただけていません。まだまだ馴染んでもらえていない部分がありますので、これからも岡崎エリア全体で一緒にやっていきたいと思っています。

### （松本会長）

確かに博物館・美術館だけ開いていてもなかなか人が集まりませんから、その周辺も活発化させることが必要だと思いますね。

### （細見さん）

少し京博連の宣伝をさせてくださいね。私は京博連にかかれこれ10年近く携わっているのですが、京博連には208もの加盟館があります。日本全国私立美術館会議という全国規模の組織がありますが、こちらの加盟館は全国で53館しかありません。いかに京博連・京都のパワーがすごいのか分かっていただけたかと思います。

なぜ京博連の加盟館が208館もあるのかと申しますと、京都には京都国立博物館や京都国立近代美術館、京都市美術館、京都文化博物館などの公立の博物館があります。また、うち（細見美術館）や野村美術館や北村美術館をはじめとする多くの私立博物館があります。さらに、ワコールの美術館や月桂冠の博物館など、企業博物館が相当数あります。加えて、京都大学もそうですが、大学博物館がたくさんあります。今、京都の国立博物館で国宝展をやっている、展示してある縄文土器に人が押し寄せていますが、先週開催されていた京都大学総合資料館の縄文展でも、国宝がたくさん並んでいたんですね。大学の博物館で国宝レベルの文化財が展示されるといったところも京都の強みだと思います。

京都の場合はこれにとどまらないんですね。東京には無い、京都にある巨大な美術館集団がお寺や神社の宝物館です。それで京都には208館もあるわけです。

その208館を分類分けすると、先ほどお話ししたICOMの分科会とほぼ同じになるんです。パリのICOM本部も、京博連という組織の存在も考慮して、この街でなら国際大会が開催できると判断されたのだと思います。

## ◆ 「ほんまもん」との出会いに学ぶ

### （松本会長）

博物館や美術館には「ほんまもん」がありますよね。「ほんまもん」を間近で楽しめるというのは、都市が持つ非常に大きな文化力だと思います。

私は先日、上野で開催されている運慶展に行ってきました。作品の前にロープが張られていなくて、間近に見ることができて本当に良かったです。その時は誰一人として作品に手を触れようとはしませんでした。美術館を運営なさっている方は気苦労が多いかと思います。高田さんは、博物館や美術館へ行ったときに、作品のそばに寄って近くで見たりしますか？

### （高田さん）

### 京都市内博物館施設連絡協議会

## 京博連

### 京都市内博物館施設連絡協議会

1992年6月、京都市内の博物館施設の発展と市民の生涯学習の推進を目指して設立。208施設が加盟（2017年12月現在）する、全国でも例を見ない大規模な博物館ネットワーク。



連続講座や体験企画の開催、各施設を巡るスタンプラリー、冊子の発行等による施設情報の発信のほか、加盟館職員の研修事業、館内案内や展示物の監視を行う市民ボランティアの養成等を実施。

伝統文化や歴史、産業、自然科学など、京都のまちに点在する多彩な分野の施設の連携協力により、京都の文化力向上に大きく貢献している。



### 博物館とは？

博物館とは、資料収集・保存、調査研究、展示、教育普及といった活動を一体的に行う施設であり、実物資料を通じて人々の学習活動を支援する施設として重要な役割を果たしている。博物館は、歴史や科学博物館をはじめ、美術館、動物園、水族館などを含む多種多様な施設であり、全国では、



登録博物館  
（細見美術館）

博物館法の規定により登録を受けた「登録博物館」が926館、博物館に相当するとして文部科学省令に基づき指定された「博

物館相当施設」が405館あるほか、博物館相当施設と同程度の規模を持つ施設として統計上把握されている「博物館類似施設」



博物館類似施設  
（京都国際マンガミュージアム）

が4,197館ある。（数字は、2017年3月時点）

### 運慶作「毘沙門天立像」（国宝）

運慶は平安時代末期、鎌倉時代初期に活動した仏師。優れた造形力による、力強く、写実性あふれる作風で知られる。国宝「毘沙門天立像」は静岡県にある願成就院が所蔵する、1186年（鎌倉時代）の作品。



私は背が高いため、前に行くと後ろの人が見にくいだろうな、と気になってしまいます。ただ、気になっている作品はどうしても近くで見たいですね。

### （松本会長）

やはり間近に見られるというのは随分と違いますからね。その点、細見館長は色々ご苦労がおりかと思えます。普通はガラスやロープ越しに作品を見ますよね。私などは老眼なので、近くで見られないと細かいところが分からないんですね。運慶さんがどんな風に彫っていたのか、この部分は力が入っていないのかなど、近くで見るからこそ分かることがありますね。なので、難しい点もあるかとは思いますが、作品をなるべく近くで見られるような展示をして欲しいと一市民として思っています。

### （細見さん）

日本のほとんどの美術館では、大体ガラスから70cmくらいのところに作品を展示します。これは明治時代に床の間で絵を鑑賞していたことからきています。現在は絵の上にカバーをして、なるべく近くで見られるように努力をしていますが、細見美術館でもガラスから60cm離して展示しています。

ただ、照明技術が発達してきて見やすくなっています。日本画は紫外線や照明から発生する熱にすごく弱いので、20年前までは紫外線オフの蛍光灯を使用した薄暗い光でぼんやりと照らしていたのですが、最近は紫外線も熱も出さないLED照明がだんだん増えてきました。現在、東京の上野美術館なんかは、8万個のLED照明を使っています、非常に明るく、より見やすくなっています。更に、東京の国立博物館では、10年くらい前からライティングスタッフという展示専門の職員を常時配置しており、完璧なライティングの下で展示がなされるようになってきているなど、色々工夫してより良く見てもらえるように努力しています。

先ほどから「ほんまもん」についてのお話が出ていますが、現在はインターネットの時代になり、美術品なども簡単に画像検索することができますし、出版物として目に触れられるスピードも速くなっています。私はいつも、ネットで見てその作品を見た気になってはダメですよ、と言っています。なぜなのか説明するのは難しいですが、私の実感として、モニター画像や印刷物で見るのと「ほんまもん」を実際に自分の目で見るのとでは記憶の残り方が違います。博物館や美術館に足を運んで「ほんまもん」を見ていただくと、より感動も得られますし記憶にも残ります。インターネット社会が芸術鑑賞に影響をもたらしている負の側面であると思っています。

### （松本会長）

私にも経験があります。京大の総長をしている頃、色々な部局を見て回りました。古典の研究をしている先生がいて、研究室にはたくさんの古書が棚に並んでいました。「どのように研究するのですか？」と伺い、本をとっておもむろに開いてみますと、「そんな見方ではいけません！」と言われまし

#### 床の間

室町から安土桃山時代にかけて完成された書院造といわれる住宅様式の装飾の1つ。元来、仏像より出たもので、押板と棚に仏像を置いていたといわれる。室内の最も象徴的な場所として、季節などに応じて生け花や掛軸等の美術品を飾り日常的に楽しむという「床の間」のあり方が日本建築における特徴的な文化として確立されてきた。戦後、生活様式の変化に伴い床の間は減少している。



#### 博物館の展示照明

博物館の展示照明は、展示物の保護（劣化原因となる熱、紫外線の抑制等）や来館者が展示物を快適に鑑賞できる環境づくり（明るさ、色の再現性、ガラスや光沢面の反射防止等）など、様々な性能が要求される。LED照明は省エネに優れるだけでなく、紫外線や熱をほとんど出さず、長寿命による保守の向上、器具の小型化など、博物館の展示において大きなメリットがあるとされる。

た。その先生によると、まず、本を開かずに手に取って上から眺めて、どのページが汚れているのを見るのが大切だと言われました。そうすることで昔の人がどの辺りをよく読んでいたのか観察しなければならないと言われました。こうしたことはデータ化された映像からは得られない重要な情報です。ネットで見るのではなく「ほんまもん」で歴史を感じる事が大事なのだと思います。

市長は様々な行事に出ておられると思いますが、「ほんまもん」に触れてみられてすごく関心を持たれたことはおありでしょうか？

### （門川市長）

私は食いしん坊なんですけどね、「文化芸術基本法」というものが今年6月に制定され、その中で文化庁が、食事を作ることも、食べることも文化に含まれるのだという見解を示しました。今まで文化庁が定義していた文化には、食文化が入っていなかったんですね。京都では当たり前のことなんですけれど。大いに食事を文化として広めていきたいですね。

京都の料理組合さんが、12月13・14日にみやこメッセで約110年続いている料理大会を開催されます。老舗の料理屋さんがコンセプトを持って料理し、器に盛りつけている展示会なのですが、レシピを全て公開しているんです。レシピを公開しても他者には真似できないという自信があるのでしょうか。これは凄い文化だと思っています。「食文化会館」というのはまだ作れていませんが、中央市場の中に「あじわい館」というのを作りました。食べておいしいということも「ほんまもん」の文化であると感じます。

### （松本会長）

そうですね、食文化、京の和食は大変有名になりましたね。レシピの話がでしたが、工業製品では様々な会社が工夫を重ね、他社に真似されないように特許を取るといったことがあります。しかし、特許権というのは期限があるので、それが切れると他社がこぞって真似をするため、元々発明した会社が廃れるという現象も起きています。

そこで最近では、特許を敢えて取らない会社も出てきています。市長のお話にあった和食のレシピを公開していることについては、たとえ調理するためのレシピを公開しても、その裏付けとなる膨大な経験や調理技術までは真似できないという自信の表れですので「ほんまもん」の文化の一つだと思いますね。高田さんは「ほんまもん」との出会いや京都の食文化についてはいかがでしょうか？

### （高田さん）

色々な所に行きますが、京都にはおいしいものがあるよと一番に言われます。京都の食文化は本当に「ほんまもん」だと感じさせられます。

美術品についてですが、私は学校で習う歴史や美術史が苦手だったんですね。興福寺仏塔は何時代のもので...とか、待鳳文化にはどういったものがあるのか...とか、単に覚えて、テストの時に文章で答えるだけだったので、

### 文化芸術基本法

文化芸術振興基本法が改正され、新たな「文化芸術基本法」として2017年6月に公布・施行。文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の分野における施策を同法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用しようとするもの。生活文化の項目に「食文化」が初めて明記された。

### 京の食文化

京都市では、京都に伝わる様々な無形文化遺産を大切に守り、未来に引き継いでいくため、「京都をつなぐ無形文化遺産」を創設。2013年10月に第1号として「京の食文化」を選定。



### 京料理展示大会

毎年12月中旬に開催され、2017年で112回を数える伝統行事。京都の老舗店が技を競って作った豪華な京料理が一堂に展示される。第1回は1886(明治19)年。技を盗まれるのを避けるため決して料理を公にしなかった各店が、東京遷都で衰退の危機にあった京都を盛り上げるために一堂に会して開催。切磋琢磨による食文化の発展に寄与している。

### あじわい館



「京都の四季を五感で味わい、京都の食文化に親しむ!」をコンセプトに、2013年4月、下京区の「京都市中央卸売市場」内に誕生。展示コーナーでは、食の歳時記や二十四節季に応じた行事食、京料理などの伝統食を紹介。また、1927(昭和2)年に日本初の中央卸売市場として開かれた同市場について知ることができる。併設の調理実習室・試食室では、魚のさばき方やイタリア料理など、多彩な料理教室を実施。市場直送の新鮮素材を使った調理&試食が楽しめる。

### 特許権

発明の保護と利用を図ることにより、発明を奨励し、産業の発達に寄与することを目的として設定される権利。財産権の一種。特許を受けた発明は、権利者が一定期間(原則20年)独占でき、期間経過後は自由開放される仕組み。

美術に苦手意識があったんです。でも、大学1年生の時に如拙の「瓢鮎図」に出会って、美術が好きになりました。

普段なら、よく分からない絵だなあとって通り過ぎるのですが、その日はなぜかとても引かかって「瓢鮎図」のクリアファイルを買って帰って、家で調べてみたんです。それで「瓢鮎図」は禅問答を描いたものであることを知りました。男の人がヒョウタンを使ってナマズを捕まえようとしているのですが、ヒョウタンの入口は狭く、絶対に捕まえられないということを描いた絵です。背景に描かれた竹や、ヒョウタン、丸い岩などは、滑りやすいものということで失敗を象徴するものであり、それを乗り越えてでも成功させようとする困難を例えた絵であることを知りました。美術は見るだけ、描くだけではなく、その奥にある「ほんまもん」を知ることが大事であると思いましたし、もっと勉強しようという現在の意欲につながっています。

### （細見さん）

実は高田さんが今言われた通りなんです。学校教育の美術は、本来の趣旨から逸脱しているように思えるのですが、大学受験科目の日本史の中の美術史として教えられていて、受験勉強の一環のように扱われているのです。なので、高田さんのように若い方には嫌な思い出しかない方が多いのです。

日本の学校では、音楽については演奏する授業と鑑賞する授業があります。しかし残念ながら、美術に関しては図画工作だけで、美術鑑賞というカリキュラムが無いのです。ヨーロッパ各国やアメリカなどでは、たくさんの子どもたちを引率した先生が展示物・作品の説明をしている光景が、どこの博物館・美術館でもよく見られます。しかし、日本ではそういった光景はほとんど見られません。

市長には、細見美術館はいつでも開放しますので小学生を連れてきてください、と言っているんです。欧米などでは小さい頃から博物館・美術館に行く経験をしているので、大人になってから週末に何をしようかと考える時に、ショッピングや映画、テーマパークと同様に、博物館が候補になります。日本人にはレジャーの候補として博物館が欠落してしまっています。ここ5年くらいは僕らの仲間が美術を分かりやすく、身近なものにしようと頑張っていて持ち直してきていますが、まだ十分ではありませんね。

### （松本会長）

知識偏重ではなく、感性に訴える教育が重要だというご意見だと思います。幅広い事柄に関心を持つということで、博物館にも行っていただき、高田さんのように実際に「ほんまもん」に触れることが重要だと思います。ぜひ皆さんも、博物館に足を運んで何かを感じていただき、同時に、小さいお子さんにもそういう経験をさせてあげることが重要だろうと思います。

京都では、博物館・美術館だけでなく、街の隅々に「あっ！」と思うようなものがショーウィンドウなどに飾ってあって、思わず立ち止まって見てしまう機会があります。市民の中に文化を大切にしようという機運があること

如拙作「瓢鮎図」（国宝）

室町幕府第四代将軍足利義持が発案した「瓢箪で鯰を捕まえることができるか」という禅問答のテーマに基づいて、日本の初期水墨画を代表する画僧、如拙（じょせつ）が描いた絵画。右京区の妙心寺塔頭・退蔵院の所蔵。



が感じられますし、京都の持つ強みの1つだと思います。京都には長らく皇室が在ったことで、皇室向けの多彩な美術工芸品が保存され伝承されてきたと思います。市民一人ひとりが、小さい頃からそういうものに触れてきたわけですよ。それこそ「生涯学習」の始まりではないかと思います。

(門川市長)

おっしゃるとおりですね。京都の街を歩けば、文化に、歴史に出会えます。1000年前に紫式部が歩いていた時代の地名が現在も使われている、そういう街は世界にも京都だけです。博物館・美術館があり神社仏閣は2000を超えます。ある意味、京都の街そのものが博物館と言えます。

## ◆ 「ほんまもん」に出会う感動を伝える

(松本会長)

高田さんは大学生で若者代表です。先ほど4人そろって登壇する時に、お客様の顔をずっと見渡していたんですが、会場の視線は一点、高田さんに集まっていた。誰も我々を見ていませんでしたね。

高田さんは日本の代表であり、京都の観光大使でもいらっしゃいますが、若い感性から日本の文化・伝統を今後どのように伝えたいと思いますか？

(高田さん)

私は職人さんのような専門知識があるわけではないので、偉そうに「日本の文化とはこういうものです」だとか「着物はこういうふうに着るものです」といったことは言えません。先ほど、2回しか着物を着たことが無いこともばれてしまいましたし。でも、専門的な知識が無いからこそ、自分なりの目線で伝えられることはたくさん有ると思っています。

私にとって着物はすごいものだけれど、たまにしか着られないものとの認識でした。でも、たまにしか着ることができなくても学べることもあるんです。例えば、今日のこの着物では、「総絞り」で牡丹と桜が描かれていますが、牡丹と桜の描かれ方が違うということに着付け師の方から伺いました。そうした経験から、実際に自分で体験することがとても重要なのだと思っています。

徳島の大塚国際美術館に行ったことがあるのですが、陶器で世界中の絵画を再現した作品が展示してあり、作品に触れることができる美術館です。これからの博物館は、触れるまではいなくても、近くで見ることができたり、あるいは実際に体験できるようになっていくではないかなと思います。

(松本会長)

若者の目線から見て、京都の文化の未来像にはどのような期待をしていますか？

### 京都伝統産業ふれあい館

京都の歴史と技を伝える伝統的工芸品74品目約500点を一堂に集め、体系的に紹介する国内でも有数の展示場。職人による実演や体験教室など開催され、伝統的工芸品の歴史や制作工程など、多種多様な伝統工芸の世界を学ぶことができる。左京区岡崎エリア「みやこめっせ」地下1階。



### 京都絞り工芸館

絞り染めは1300年の歴史を持つ最高級の着物の1つ。「総絞り」は着物などの生地全体が絞り染めであるものをいう。中京区にある日本で唯一の絞り染め専門のテーマ館である「京都絞り工芸館」では、絞り染めの額、屏風等を制作、コレクションして展示。絹の布を絞り、染めまで体験できる。



## （高田さん）

細見館長のお話にありましたが、休日に家族で遊園地に行こう、とはなっても、なかなか博物館や美術館に行こうとはなりませんね。特に子どもの頃は、博物館や美術館は敷居が高いというイメージがありました。物は見られるけれども、難しい説明が記されていて、子どもにはそれが何なのかはよく分からない。だからと言って、子ども向けの説明にしまうと説明が簡単になりすぎてしまって、大人が楽しめなくなってしまうということもあると思います。

ナイトミュージアムというイベントは、子どもにとって行くだけでワクワクすることだと思います。また、博物館でしか食べられない物があったりすることも、とても魅力的に感じます。大人にとっては知的な部分で楽しむことができ、子どもにとっても後々の学びの種となる。そういったことで、家族全員や友達など皆で行って、皆で楽しめる場所にすることで、文化はただ受け継ぐだけでなく、今の形にアップデートされながら伝わっていくのではないかと思います。

## （松本会長）

皆さんもテレビなどで時々耳にされることもあるかと思いますが、メガネをかけると3次元の世界が見える、バーチャルリアリティというものがありますよね。例えば、火星にでも立っているかのような気分を味わえるというものです。そういった技術がありますから、博物館に導入できれば、実際には触っていないのに、作品に触れているような体験もできるようになるのではないかと思います。今は、感覚も人工的に作ることができる時代になっています。例えば、軟式テニスのボールはふにゃふにゃですよ。手袋をつけて全く何も無い空間でボールを触るように手を動かすと、実際に触っているかのような、ふにゃふにゃしたと感覚がそのまま脳にインプットされる技術もあります。ですから、美術品や彫刻・お茶碗など、実際には触れないものを、バーチャルリアリティ技術などを使って、見て、触れているような体験ができる、そんな時代が来たらいいなと私は思っていますが、市長どうでしょうか。

## （門川市長）

おもしろいですね。美術作品や展示物の細かいところまでが見るだけでなく、触れられるようになるのは素晴らしいと思います。

先日、中村芝翫<sup>しげひん</sup>さんが2人の息子さんと三田寛子さんを連れて、顔見世のあいさつにお越しくございました。11月12日に、先斗町の歌舞練場で子どもたちに歌舞伎を見せるときに、NTTと協力した最先端の科学技術を駆使して、実際にできないことと「ほんまもん」を同時に体験していただくという試みに挑戦されるのだそうです。市内でも、こんな風にバーチャルと「ほんまもん」を、それぞれ単体ではなく融合させて、日本文化をもう一段楽しんでいただくという試みがされています。

## ナイトミュージアム京都



ICOM 京都大会の開催を記念する特別プログラム。週末の夜、閉館後のミュージアムを舞台に、館長自らによるギャラリートークや、普段は見られない秘蔵作品や特別展示室の公開、お茶を飲みながら気軽に質問もできるトークイベントなど、日常とは違う夜のミュージアムの魅力に触れることができる。

## 京都ミュージアムロード 「京のスイーツミュージアム」



毎年1月から3月にかけて実施される京都ミュージアムロードでは、京都市内の約100館で展示・体験企画を実施。参加施設を巡るスタンプラリーでは、抽選でミュージアムグッズのプレゼントも当たる。更に、ICOM 京都大会を記念する2018年の第23回京都ミュージアムロードでは、ミュージアムカフェにも注目し、ミュージアムや展示品にちなんだオリジナルスイーツの特集も実施。

### （松本会長）

市長にはぜひそうした取組を後押ししていただきたいですね。バーチャルリアリティと言いますと、ゲームの世界というイメージが強いと思います。私ごとですが、仕事の拠点は東京ですが、生活の本拠は奈良なんです。ところが息子は京都市民でして、あまり奈良に帰ってこない。孫とはスマホなどのテレビ電話で話すのですが、テレビ電話はつまらないですね。頭を撫でることもできないし、小突くこともできない。

将来、バーチャルリアリティで3次元像ができる、それに疑似的に触れられる時代がきっと来ると思います。そうなれば、彫刻や様々な美術品・展示物の3次元像に、実際は何もないのに手袋をして触るとその彫刻の感触がそのまま伝わる、孫の頬を撫でる感覚が伝わる、といった世界が来たらいいなと思っています。

## ◆ 質疑応答

### （松本会長）

今日は博物館・美術館のお話を中心にりましたが、京都という街はもっと裾野が広い街で、色々な分野で文化を維持しています。お互いに教えたり、教えられたりということが日常的にあります。お茶やお花は言うに及ばず、お寺のお坊さんは我々の想像を超える知識をお持ちであり、色々な先生方がおられます。そういった方々と触れ合うということも、文化に直接触れるということなのだろうと思います。



そういう意味で、せっかく細見さんと高田さんというお二方に来ていただいていますので、何か客席の皆さんからご質問がございましたらお受けいたしますが、いかがでしょうか。皮切りに、当フォーラムの榊原副会長いかがですか？

### （榊原副会長）

高田さんは徳島の大塚国際美術館に行かれたことを話題にされていましたが、私も行ったことがあります。大塚国際美術館では、作品が実物大に作られて展示されていて、その大きさを体感できます。実際の美術品を見ることには、その大きさを感じるという楽しさもあると思います。

また、京都の中にはたくさんお寺がありますが、お寺に安置されている仏さまの素晴らしさも、その場の光や雰囲気などに影響されます。ぜひ若い方には、街にある博物館や美術館に足を運んで欲しい。また、お寺そのものが博物館・美術館でもあります。高田さんには神社仏閣を訪れる素晴らしさも、同世代の若い人たちに伝えて欲しいと思います。

### （高田さん）

私もタイに行って仏像を見ましたが、仏像が展示物として並んでいるのを

見るのと、実際にお寺で手を合わせて仏像を見るのとでは全然違っていて、場所や建物や雰囲気を含めての「ほんまもん」なのだとも感じました。ですので、周りの人にもそうしたことを伝えていけるよう頑張りたいと思っています。

### （参加者①）

細見館長に伺います。先日、京都国立博物館の国宝展を見に行ってきたのですが、来場者がとても多く、ところてん状態で、せっかくの国宝をゆっくりと見ることができませんでした。このような状態の解消について何かお考えはありますか？

### （細見さん）

解消方法は難しいですね…。日本の美術館というのは、5年前まで本当に閑散としていたんですね。若冲ブームや京都国立博物館が実施する特別展が人気を博したことなどがあり、近年来場者が突然増えるようになりました。

もともと日本の美術館というのは、人が入らないということが常識だったんです。ですので、嬉しい悲鳴でもあるのですが、東京の運慶展や京都国立博物館などは2時間待ちという状況で、昨年うちの（細見）美術館で開催した春画展や若冲展でも1時間ほど並んでいただくご迷惑をかけました。現在の状況は関係者からすれば「まさか」の事態なんです。実は博物館・美術館の建物は、多数の人を収容できるように建てられていないんです。細見美術館を例に申しますと、申し訳ないのですがキャパシティが1時間に500人しか入れないようになっています。なので、入場制限をかけてしまうんですね。できるだけスムーズに入館してもらえるように努力はしているのですが、とりあえず京都国立博物館や細見美術館ではSNSを活用して混雑時には待ち時間を発信するなどの努力しているのですが…。本当に申し訳ないです。

### （松本会長）

市場原理の問題も多少あるかと思いますが、急にはキャパシティを広げられませんからね。こうした意見はお叱りを受けますと思いますが、混雑時間帯は入場料を上げるというのも方法かと。例えば、入場料1,000円のところを2,000円払ってもいいからゆっくり見たいという方もおられますよね。そういう方専用の特別レーンを設けるといったこともひとつの方法ではないでしょうか。

### （門川市長）

本当に大変な状態ですね。昨日の話ですが、とある美術館に行きまして、入館まで30分待ちだと思っていたんですが、15分で入館させていただいたんですね。ところが、入ってみたら人が多くて見られない。これなら待った方がましだったということがありました。これまで、ルーブル美術館が企画展をすればパリで行列ができていたような日本の美術品であっても、国内

### 若冲ブーム

伊藤若冲は、18世紀の京都で活躍した画家。繊細な描写技法によって動植物を美しく鮮やかに描く一方、即興的な筆使いとユーモラスな表現による水墨画を数多く手がけている。2000年に京都国立博物館で開催された若冲展が人気を集め、2016年に各地で開催された生誕300年記念行事には多くの若冲ファンが押し寄せた。



伊藤若冲 作  
「雪中雄鶏図」  
(細見美術館所蔵)

### ※主な若冲関連の展覧会

年度	展覧会名	動員数
平成12年	没後200年 若冲展	9万人
平成18年	若冲と江戸絵画展	82万人
平成19年	動植綵絵展	12万人
平成25年	若冲が来てくれました展	32.6万人
平成28年	生誕300年記念 若冲展	44.6万人

あんまり答えになっ  
てませんね（笑）



科学の力で何とか…。

では展示しても列なんてできなかつたんですね。

現在、国で文化財についての見直しが行なわれています。これまで文化財は保存を中心に考えられていたのですが、保存だけでなく活用する方法について議論がされつつあります。例えば、国宝は1年につき1箇月しか展示できないという制限があります。日本画については紫外線に脆弱であるためこうした規制もわかるのですが、陶磁器などの紫外線の影響が少ないものも同様の制限を受けています。そういったものについては、展示制限などの規制を緩めて、もっと見てもらえる機会を増やそうといった議論もあります。

世界の宝ですので、劣化しない範囲でということは守りつつ、見てもらう機会を増やして、皆で価値を感じて活かしていく、そして新たな価値を創出していこうということですね。今作られたものも100年後には文化財になりますので、こういったことも一緒にしていかなければならないと思っています。

### (参加者②)

京都には歴史・考古学に係る総合的な博物館がまだありませんね。大阪には大阪歴史博物館という、大阪城の横に大きなビルの博物館があり、眼下には難波宮の跡地や大阪城が見られます。大阪の歴史と日本の歴史が分かる総合的な歴史博物館となっています。しかし、京都には総合的に日本・京都・関西の歴史が分かる博物館がありません。

京都も国際都市ですから、日本・東アジアの歴史を一覧できる、総合的な歴史博物館が設立されればいいなと思っています。

### (門川市長)

冒頭の挨拶でも申し上げましたが、街を歩けば博物館にあたるというのが京都市です。その価値のある博物館の相互連携を図り、そしてキュレーターも育てていこうとされているのが京博連です。

京都市は、これだけの歴史都市でありますから、その歴史が総合的に分かる京都博物館的なものを作ってもらいたいと国に要望し、危機的な財政状況の中、200億円を超える予算を使って京都国立博物館を全面的に改築してもらいました。しかし、これではまだ足りない、ということで今も要望を続けております。

おっしゃるとおり、大阪歴史博物館は立派なものです。京都にも同様の総合歴史系博物館を作るのであれば、その10倍、20倍のものが必要になるだろうとも思っています。1200年の歴史がある京都の歴史やその幅の広さを考えますと、1箇所で全てを皆さんに分かってもらえるようにするにはそのぐらいの規模が必要であり、これはなかなか難しいだろうと思います。

ですので、まずハードは別にして、ソフトを育てていこうとしてきました。それが京博連という仕組みとして出来上がってきており、この時代のことはここの博物館、この分野はここの博物館を見たら分かりますというようになってきています。そして、これをバーチャルの世界で統合していこうとしていただいています。

1つの総合博物館で京都の全てが分かるというのは無理ではないか

#### 京都国立博物館

京都の寺社仏閣等を中心とした貴重な文化財の保存、収集、研究、展示を目的として1897(明治30)年に開館。2017年に120周年を迎えた。2014年9月に平成知新館(平常展示館)がリニューアルオープンしている。



ということで、京博連のこうした取組を支援していく、そして同時に国に対して総合歴史博物館の設立も求めていると思っています。

#### （松本会長）

文化庁も京都へ移ってこられますし、日本を代表する京都の歴史や考古学的な総合博物館の設置について積極的な回答を市長にいただきました。

まだ、複数の方が手を挙げておられましたので、一度お伺いし、ご質問には後程まとめて一緒に回答したいと思います。

#### （参加者③）

細見美術館で春画展をやっておられ、ずいぶん若者に人気だったように思います。このように刺激を与えないことには、若者に博物館や美術館に関心を持ってもらえないではないかと思えます。しかし、博物館で春画を展示するというのもいかがなものか、とも思えます。この辺りはどのようにお考えでしょうか。

#### （参加者④）

ご自分の人生に決定的な影響を受けた、師匠や詩、書物などを教えていただけますか。登壇者の皆さんそれぞれからお答えいただければと思います。

#### （門川市長）

博物館・美術館という堅く考えていらっしゃる方も多いと思いますが、最近ですとご家族で楽しんでいただける鉄道博物館や水族館ができましたし、市立動物園もリニューアルしました。

京都市の動物園は世界で最高の動物園です。かつての動物園は、動物の色や形を驚き楽しむというもので、第2期の動物園は動物の生態を入場者が学ぶものでした。京都市の動物園は動物の学びを学ぶという第3期の動物園です。松本先生が京都大学総長のとき、京都大学の野生動物研究センターと協定を結んで深化しました。世界をリードする動物園になると思っています。ぜひ堅く考えずに行って欲しいなと思います。

先ほどの春画の話でも、日本の春画について世界で最も収集・研究が進んでいるのは、実は、西京区の桂坂にある国際日本文化研究所（日文研）なんですね。ここが妖怪の話ですとか春画を集めているんです。俗っぽいものと決めつけるのではなく、浮世絵などと同様に、これらが世界では芸術品として評価されていることに着目しているわけです。

もう1点、この前こんなことがありました。漢検協会が開設した漢字ミュージアムに小学生と一緒に行ってきました。小学生に感想を聞きましたら、お化け屋敷で面白かったと言っていましたね、漢字ミュージアムでお化け屋敷？どうゆうこと？と聞いてみましたら、怖い漢字を集めて展示していたんですね。子どもは漢字の展示をお化け屋敷として楽しんでいた。それなら、市としても動物園でお化け屋敷をやったらどうか。他にも、龍谷大学の龍谷ミュージアムでは、地獄絵の展覧会をやっていまして、展示されている作品

#### 京都市動物園

1903（明治 36）年、多くの市民の寄付を集めて日本で2番目に開園。京都大学と京都市の協定に基づき「生き物・学び・研究センター」が設置されている。生態や繁殖等の研究など、生き物について学ぶ取組だけではなく、絶滅危惧種の研究を通じて地球環境を学ぶ取組、チンパンジーがどのように子育てをするかなど生き物の学びを学ぶ取組なども行われている。



#### 漢検漢字博物館・図書館

##### （漢字ミュージアム）

映像やグラフィック、ゲームなど、触れて楽しむことを通じて、漢字の歴史や文化を学ぶことができる体験型ミュージアム。2011年に閉校した弥栄中学校跡地（東山区）に建築されている。



は凄いものなんですけど、あまり多くの人が入っていないようです。関心のない若者を呼び込むために、お化け屋敷というコンセプトで展覧会をやってみるというのも一つの方法として有効ではないのか、こういう視点なんですね。

そして、私にとっての師匠というと…。なかなか一言では言えないのですが、あらゆる先人の生き方・学び方といったものが京都で学べます。博物館・美術館に行ったり、あるいは街を歩いていて老舗のお店の社訓・家訓から色々なことが学べたりする。学びのたくさんある街、この京都かなと感じています。

### （高田さん）

私はまだ20歳ですが、これまでたくさんの先生にお世話になっていて、その中から1人というのは難しいので、歴史上のある女性を挙げたいと思います。

私が尊敬している人は誰かと聞かれたときに常に紹介しているのが、エレン・ルーズベルトという女性です。アメリカのルーズベルト大統領の奥様で、彼女はファーストレディなのですが、夫がポリオにかかって、政治生命が危ういというときに、彼女は自分がアメリカを旅して見聞したことを大統領に伝え、その現状を踏まえた政策についても助言することで夫の政治活動を支えていました。

また、彼女は家庭を大事にしながら、同時に世界人権委員会の委員長を務めて世界人権宣言の基礎を作った女性でもあります。私も彼女のように、家族やお世話になっている方々に感謝し大切にしつつ、日本や世界のために尽力する人間になりたいと頑張っていきたいと思っています。



### （細見さん）

市長がおっしゃるとおり、日文研は、文部科学省の外郭団体の研究所なのですが、ここの妖怪と春画のコレクションはとても素晴らしいものです。

最初の質問ですが、実は、若者に刺激を与えて来館してもらおうという狙いで「春画展」をやったわけではないのです。日本の美術館は、世界の美術館と比べると企画展ばかりやっているというのが実情です。細見美術館でも年に5回は企画展をやっていますので、来年20年ですから、もう100回ほど企画展をやってきたことになりそうです。そうした中で、刺激のあるものや、奥の深いものなど、様々な企画をやってきたということです。

市長が先ほどおっしゃったように、日本の美術品というのは、年に1～2箇月しか展示できないんです。ですので、ルーブル美術館へ行けばいつも「モナリザ」が微笑んでいる、プラド美術館へ行けばいつも「裸のマハ」が横たわっているというのは、同じにできないんですね。これも市長からご説明のあった通り、油絵具と異なり日本絵具は紫外線にすごく弱いことから、保存上の問題で1～2箇月間で色々展示物を替えないといけないんです。ですので、ほとんどの美術館で年に4～5本は企画展をやっていて、中には刺

### 国際日本文化研究センター

日本文化に関する総合的な研究や世界の日本研究者への協力を目的とする大学共同利用機関法人。1987年創設。京都市西京区。研究対象は多岐にわたり、春本・春画や怪異・妖怪といった、他の機関ではあまり大きく扱われていない分野も、日本の特色ある大衆文化の1つとして学術的な研究が行われている。



激の強いのも弱いのも、重苦しい企画展もあるといった次第です。

また、私も高田さんのように二十歳くらいでしたら、私が影響を受けた人物をお一人上げて言及できるかもしれないのですけれども、この歳になりますと、本当に色々な方から多くの影響を受けてばかりでして。なかなか特定の方を紹介するのが難しいですね。日々、教えをいただいている皆様に感謝している次第です。

#### （松本会長）

博物館に若い人を惹きつける方法を考えなければならない、という意見についてですが、本当にそのとおりで、考えていかなければならないことですね。今の若い人は、SNSないしスマホの影響を受けていますので、それを踏まえた対応が必要だと思います。

影響を受けた人として、身内を挙げられる方はあまりいらっしゃらないとは思いますが、私は1人選べと言われますと、母親ですね。母は97歳で存命ですが、認知症なので私のことを認識できない状態ではあります。

長い間、母から影響を受けたとは自分では思ってこなかったのですが、このところ思い返してみますと、やはりかなり影響を受けていることを実感するようになりました。我々から見ると親の世代は「昔の人」という感じですが、規律をしっかり守り、どんなに貧しくても子どもの教育はしっかりしようという人でした。もちろんその後読んだ本やたくさんの恩師からの影響も受けていますが、1人選ぶとすれば、母親です。

#### （門川市長）

お母様のことをあげられるのは、大変素晴らしいお答えだと思います。松本先生の「私の履歴書」が日経新聞に掲載されていました。松本先生のああいっただい生い立ちがあって、今の松本先生が在るのだなということがよく分かります。もし機会があれば、皆さんにもぜひ読んでいただきたいですし、本日はその一端を聞かせていただいたのだと思います。



#### （松本会長）

皆さん、今日は本当にありがとうございました。